平成28年度高岡市公営企業会計決算審査意見

第１　審査の対象

　　　平成28年度　高岡市水道事業会計決算

　　　平成28年度　高岡市工業用水道事業会計決算

　　　平成28年度　高岡市簡易水道事業会計決算

平成28年度　高岡市下水道事業会計決算

　　　平成28年度　高岡市高岡市民病院事業会計決算

第２　審査の期間

　　　平成29年５月31日から平成29年７月25日まで

第３　審査の方法

審査に当たっては、各会計の決算報告書及びその附属書類が、関係法令に準拠して作成され企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係職員から決算に

ついての説明を聴取するなどの方法により実施した。

第４　審査の結果

審査に付された各会計の決算報告書及びその附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し経営成績及び財政状態を適正に表示しており、また、予算執行及び会計処理は適正であると認められた。

第５　審査の意見

各事業会計についての審査意見は、次のとおりである。

【水道事業会計】

平成28年度の業務状況は、給水人口が147,832人で、前年度に比べ911人(△0.6％)、

行政区域内人口が160,524人で、前年度に比べ1,055人(△0.7％)とそれぞれ減少しているが、普及率は前年度と同率の92.1％となっている。

配水状況では、総配水量が15,677,550㎥で、前年度に比べ130,050㎥（△0.8％）、有収水量が14,202,930㎥で、前年度に比べ23,913㎥（△0.2％）とそれぞれ減少している。

経営状況は、総収益3,215,976千円に対し総費用は2,520,787千円となっており、

695,189千円の当年度純利益が生じ、前年度に比べ153,752千円（28.4％）の増益と

なっている。

　これは主に、収益面で水道利用加入金が増加したこと、費用面で人件費及び受水費がそれぞれ減少したことによるものである。

また、有収水量１㎥当たりの供給単価は188円84銭で、前年度に比べ4銭の減少、

給水原価は156円94銭で、前年度に比べ9円84銭の減少となり、１㎥当たり31円90銭の利益が生じている。

一方、財政状況では、前年度に比べ資産は448,580千円(1.7％)の増加、負債は

251,775千円(△1.7％)の減少、資本は700,355千円(6.2％)の増加となり、資産合計及び負債・資本合計は26,870,677千円となっている。

　当年度は、基幹管路である庄川幹線の更新や老朽配水管及び鉛給水管の更新をはじめ、基幹施設整備として国吉配水池緊急遮断弁等設置工事、中央監視制御装置更新事業を実施し、良質な水の安定供給と地震等の災害に強い水道施設を構築されたことを評価する。

　今後の水道事業については、給水人口の減少や節水型社会への進展などから、給水収益の大幅な伸びは期待できず、また、既存施設の維持管理や配水管の老朽化、耐震化への

対応、さらに技術の継承など、多くの課題や厳しい経営状況が続くものと考えられる。

　これらを踏まえ、新たに策定された「高岡市上下水道ビジョン」に掲げる、「安全」「強靭」「持続」の３つの基本方針に基づく事業施策を推進し、経費の節減等や効率的で効果的な事業運営に努められたい。

【工業用水道事業会計】

平成28年度の業務状況は、供給先３社に、１㎥当たり４円30銭の契約単価で工業用水を供給している。

供給水量は6,606,000㎥で、前年度に比べ658,600㎥(△9.1％)減少している。これは、

７月１日から契約水量(日量)が2,000㎥減量したことによるものである。

経営状況は、総収益30,318千円に対し総費用は27,817千円となっており、2,501千円の

当年度純利益が生じ、前年度に比べ835千円（50.1％）の増益となっている。

また、有収水量１㎥当たりの供給単価は４円30銭、給水原価は３円94銭で、１㎥当たり

36銭の利益が生じている。

一方、財政状況では、前年度に比べ資産は199千円(0.0％)の増加、負債は2,302

千円（△2.6％）の減少、資本は2,501千円（0.5％）の増加、資産合計及び負債・資本

合計は618,701千円となっている。

今後の工業用水道事業については、契約水量の減量が見込まれる一方で、計画的に施設の保守管理・更新を進めていく必要があることから、新たに策定された「高岡市上下水道ビジョン」に基づき、経営の効率化により、健全で安定的な事業運営に努められたい。

【簡易水道事業会計】

平成28年度の業務状況は、行政区域内人口が12,901人で、前年度に比べ12人

(△0.1％)、給水人口が9,171人で、前年度に比べ6人(△0.1％)と減少しているが、普及率は前年度と同率の71.1％となっている。

配水状況は、総配水量が784,945㎥で、前年度に比べ455㎥(△0.1％)減少しているものの、有収水量は613,042㎥で、前年度に比べ429㎥(0.1％)と増加している。

経営状況は、総収益167,038千円に対し総費用は176,243千円となっており、

9,205千円の当年度純損失が生じ、前年度に比べ7,406千円(44.6％)純損失が減少して

いる。

また、有収水量１㎥当たりの供給単価は189円41銭、給水原価は248円42銭で、１㎥当たり59円1銭の損失が生じている。

一方、財政状況では、前年度に比べ資産は32,658千円（△1.4％)の減少、負債は

49,516千円（△2.7％）の減少、資本は16,858千円（3.3％）の増加となり、資産合計及び負債・資本合計は2,335,432千円となっている。

　当年度は、福岡駅前土地区画整理事業に伴う配水管布設工事や鉛給水管の更新工事を進めるとともに、福岡浄水場配水池補修工事を行うなど、良質な水の安定供給に努められた。

　簡易水道事業については、経営基盤の強化を図るため、新年度から水道事業に統合された。引き続き、未普及地区整備を進めるとともに、給水区域における新たな利用加入の促進による有収率の向上を図られ、安全で良質な水の安定供給と健全経営に努められたい。

【下水道事業会計】

平成28年度の業務状況は、行政区域内人口が173,425人で、処理区域内人口が162,395人で、普及率は93.6％となり、前年度に比べ0.3ポイント上昇している。処理区域面積は、4,354.1haで前年度に比べ33.5ha(0.8％)増加している。水洗化率は94.1％で前年度に

比べ0.2ポイント上昇している。

経営状況は、総収益5,730,391千円に対し総費用は5,405,211千円となっており、

325,180千円の当年度純利益が生じ、前年度に比べ113,246千円（53.4％）の増益と

なっている。

これは主に、費用面で支払利息、資産減耗費及び流域下水道維持管理負担金が減少したことによるものである。

また、有収水量１㎥当たりの使用料単価は194円50銭で、前年度に比べ55銭の減少、

汚水処理原価は160円88銭で、前年度に比べ3円70銭の減少となり、１㎥当たり33円62銭の利益が生じている。

一方、財政状況では、前年度に比べ資産は1,040,971千円（△1.2％）の減少、負債は1,751,459千円（△2.0％）の減少、資本は710,488千円（33.2％）の増加となり、資産合計及び負債・資本合計は89,331,642千円となっている。

　当年度は、生活環境の改善、公共用水域の水質保全、浸水の防除を目的として、公共下水道及び特定環境保全公共下水道の整備を図るなか、基幹施設整備として、四屋浄化センター散気装置改築工事に着手するとともに、高岡市緊急浸水対策行動計画に基づき、住吉ポンプ場増設工事や雨水幹線整備を実施するなど浸水対策に取り組まれたことを評価する。

　今後の下水道事業については、収益の根幹である下水道使用料の大幅な増収は期待できず、また企業債元利償還金も大きいことから厳しい経営状況が続くものと考えられる。

これらを踏まえ、新たに策定された「高岡市上下水道ビジョン」に基づき、下水道未接続世帯への水洗化の促進などにより、下水道使用料を確保するとともに、未普及地区整備において地域に最も適した方法を検討するなど、効率的で効果的な施設整備と維持管理に取り組まれ、経営基盤の強化に努められたい。

【高岡市民病院事業会計】

平成28年度の業務状況は、入院・外来延患者数が319,963人で、1日平均入院患者数は304.2人、1日平均外来患者数は859.9人、病床利用率は75.9％となっている。前年度に比べ、入院延患者数は2,340人(△2.1％)の減少、外来延患者数では7,764人(△3.6％)の減少、病床利用率は10.7ポイント上昇している。

経営状況は、総収益9,227,816千円に対し総費用は9,356,891千円となっており、129,075千円の当年度純損失が生じたものの、前年度に比べ163,954千円(56.0％)純損失が減少している。

これは主に、医業収益が増加したことに加え、医業費用が減少したことによるものである。

医業収益のうち入院収益は、延患者数が減少したものの、新規入院患者の獲得を積極的に行ったことで実入院患者数が増加したことや、手術件数の増加などにより診療単価が増加したことで増収となっている。一方、外来収益は、地域連携の強化を図り、症状の安定した患者をかかりつけ医へ逆紹介したことや紹介状を持たない初診患者に対する非紹介患者初診加算料を値上げしたことにより患者数が減少したこと、新薬である抗肝炎ウイルス剤の使用の減少などで診療単価が減少したことにより減収となっている。

医業費用は、給食調理部門の委託化により、経費などで増加が見られたものの、給食調理員が減少したことで給与費や、高度医療機器の減価償却が一部終了したことで減価償却費などが減少したことにより、前年度に比べ減少となっている。

一方、財政状況では、前年度に比べ資産は777,640千円（△6.0％）の減少、負債は971,855千円（△7.2％）の減少、資本は194,215千円（38.3％）の増加となり、資産合計及び負債・資本合計は12,183,822千円となっている。

高岡市民病院は、病院・病床の機能分化や医療機関の連携による地域包括ケアシステムの構築が進められていくなかで、高岡医療圏の中核的病院として、高度急性期医療のさらなる機能強化が求められている。

このことから、当年度は、地域がん診療連携拠点病院としてがん医療をさらに強化し、患者の利便性や快適性の向上を図るため、がん医療に関する情報の共有化を図り、他職種が連携してがん患者をサポートする包括的がん医療センターを開設され、あわせて、外来化学療法室を拡充されたことを評価する。

しかしながら、平成28年度の診療報酬改定において、実質マイナス改定になったことに加え、入院患者7人に対し看護師1人以上を配置する医療体制である7対1入院基本料の基準厳格化により、非常に厳しい状況に直面している。

今後の病院事業については、県において策定された地域医療構想に基づき改訂された「第Ⅳ期中期経営計画」に掲げる、「急性期病院としての機能特化」、「政策的医療を担う役割の堅持」、「地域包括ケア体制の構築に向けた地域連携のさらなる推進」を目指し、医療の質の向上、チーム医療の推進、経営の安定に関する施策などに取り組まれ、地域に根ざし住民に信頼され、選ばれる病院となるよう努められたい。